

第 9 章 地下水

地下水の水質汚濁に係る環境基準

平成26年11月17日

	項目	基準		項目	基準
1	カドミウム	0.003mg/l以下	15	1,1,1-トリクロロエタン	1mg/l以下
2	全シアン	検出されないこと	16	1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/l以下
3	鉛	0.01mg/l以下	17	トリクロロエチレン	0.01mg/l以下
4	六価クロム	0.05mg/l以下	18	テトラクロロエチレン	0.01mg/l以下
5	砒素	0.01mg/l以下	19	1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/l以下
6	総水銀	0.0005mg/l以下	20	チウラム	0.006mg/l以下
7	アルキル水銀	検出されないこと	21	シマジン	0.003mg/l以下
8	PCB	検出されないこと	22	チオベンカルブ	0.02mg/l以下
9	ジクロロメタン	0.02mg/l以下	23	ベンゼン	0.01mg/l以下
10	四塩化炭素	0.002mg/l以下	24	セレン	0.01mg/l以下
11	塩化ビニルモノマー	0.002mg/l以下	25	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/l以下
12	1,2-ジクロロエタン	0.004mg/l以下	26	ふっ素	0.8mg/l以下
13	1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/l以下	27	ほう素	1mg/l以下
14	1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/l以下	28	1,4-ジオキサン	0.05mg/l以下

- ※・基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。
- ・「検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。
 - ・硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、規格K0102の43.2.1、43.2.3又は43.2.5により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと規格K0102の43.1により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。
 - ・1,2-ジクロロエチレンの濃度は、規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2により測定されたシス体の濃度と規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1により測定されたトランス体の濃度の和とする。

水道法水質基準（飲用基準）

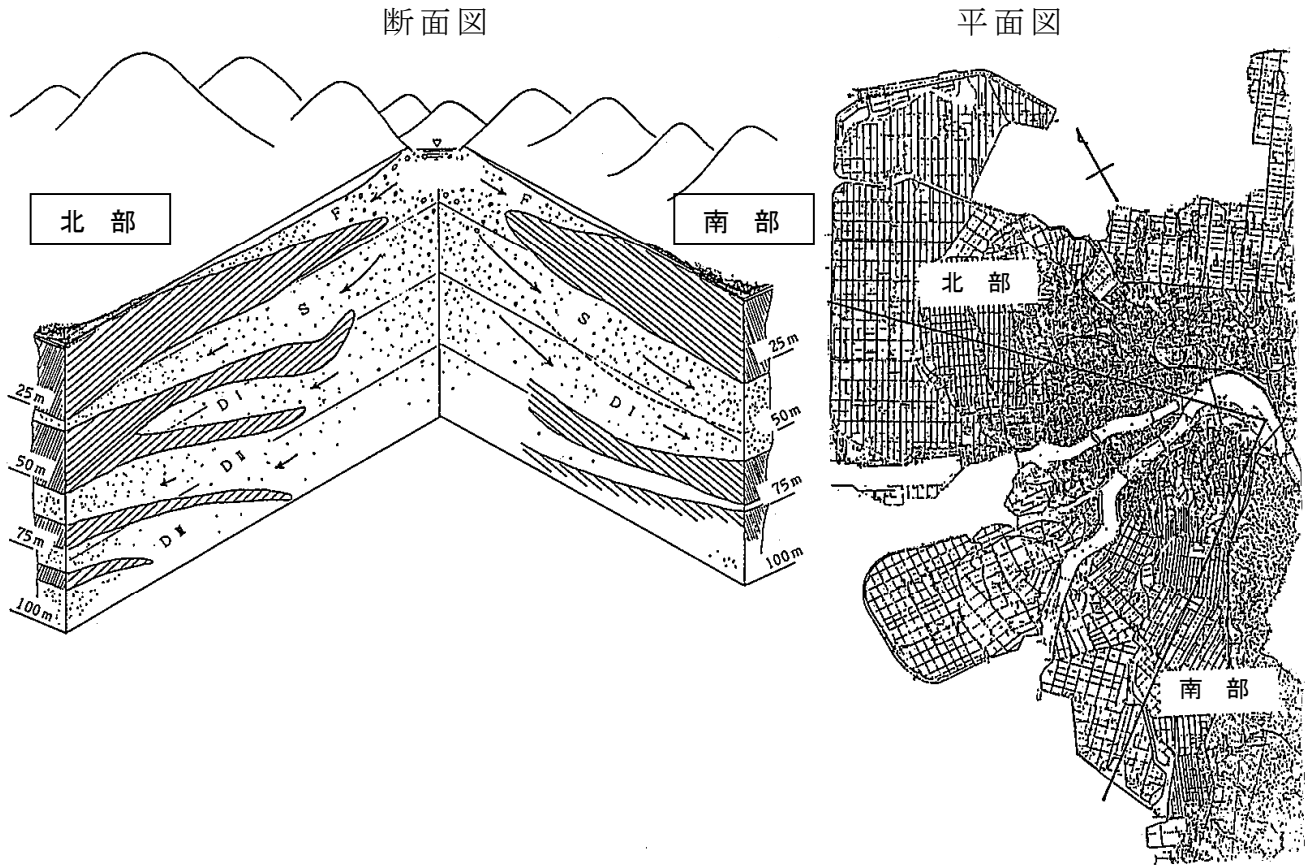
平成26年4月1日

	項目	基準		項目	基準
1	一般細菌	100/ml以下	27	総トリハロメタン	0.1mg/l以下
2	大腸菌	検出されないこと	28	トリクロロ酢酸	0.2mg/l以下
3	カドミウム及びその化合物	0.003mg/l以下	29	ブロモジクロロメタン	0.03mg/l以下
4	水銀及びその化合物	0.0005mg/l以下	30	ブロモホルム	0.09mg/l以下
5	セレン及びその化合物	0.01mg/l以下	31	ホルムアルデヒド	0.08mg/l以下
6	鉛及びその化合物	0.01mg/l以下	32	亜鉛及びその化合物	1.0mg/l以下
7	ヒ素及びその化合物	0.01mg/l以下	33	アルミニウム及びその化合物	0.2mg/l以下
8	六価クロム化合物	0.05mg/l以下	34	鉄及びその化合物	0.3mg/l以下
9	亜硝酸態窒素	0.04mg/l以下	35	銅及びその化合物	1.0mg/l以下
10	シアン化物イオン及び塩化シアン	0.01mg/l以下	36	ナトリウム及びその化合物	200mg/l以下
11	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	10mg/l以下	37	マンガン及びその化合物	0.05mg/l以下
12	フッ素及びその化合物	0.8mg/l以下	38	塩化物イオン	200mg/l以下
13	ホウ素及びその化合物	1.0mg/l以下	39	カルシウム、マグネシウム等（硬度）	300mg/l以下
14	四塩化炭素	0.002mg/l以下	40	蒸発残留物	500mg/l以下
15	1,4-ジオキサン	0.05mg/l以下	41	陰イオン界面活性剤	0.2mg/l以下
16	シス-1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/l以下	42	ジェオスミン	0.00001mg/l以下
17	ジクロロメタン	0.02mg/l以下	43	2-メチルイソボルネオール	0.00001mg/l以下
18	テトラクロロエチレン	0.01mg/l以下	44	非イオン界面活性剤	0.02mg/l以下
19	トリクロロエチレン	0.01mg/l以下	45	フェノール類	0.005mg/l以下
20	ベンゼン	0.01mg/l以下	46	有機物（全有機炭素の量）	3mg/l以下
21	塩素酸	0.6mg/l以下	47	pH値	5.8以上8.6以下
22	クロロ酢酸	0.02mg/l以下	48	味	異常でないこと
23	クロロホルム	0.06mg/l以下	49	臭気	異常でないこと
24	ジクロロ酢酸	0.04mg/l以下	50	色度	5度以下
25	ジブromokロロメタン	0.1mg/l以下	51	濁度	2度以下
26	臭素酸	0.01mg/l以下		(空白)	(空白)

- ※・ジェオスミンとは、(4S・4aS・8aR)-オクタヒドロ-4・8a-ジメチルナフタレン-4a(2H)-オールのこと。
- ・2-メチルイソボルネオールとは、1・2・7・7-テトラメチルビシクロ[2・2・1]ヘプタン-2-オールのこと。

八代市の地下構造

この図は、八代市の地下構造を簡単に示したものです。



<地層区分の概要>

	地層区分	地質年代	帯水層
F	扇状地礫層	完新世	不圧帯水層
Ac	有明粘土層	〃	
S	島原海湾層	更新世	被圧帯水層
Aso-4	軽石擬炭岩	〃	
DI	未区分洪積層 I 層	〃	被圧帯水層
DII	〃 II 層	〃	〃
DIII	〃 III 層	〃	〃

八代市の地下水は、球磨川などの水が地下浸透したもので、帯水層はF層、S層、DI、DII、DIII層と呼ばれる層から成っている。

そのうち被圧帯水層は、北部地方（前川から北の地域）では、帯水層が狭くS層、DI、DII、DIII層から成っているのに対し、南部地方ではS層とDI層が連続しており、厚みのある帯水層を形成している。

1. 地下水位調査

地下水位は、地下水を保全していく上で最も基礎的かつ主要な情報である。そこで帯水層及び地理的条件を考慮し、市内 6 箇所にて地下水観測井を設置し、被圧地下水については昭和 52 年以降、不圧地下水については昭和 62 年以降常時観測を行っている。

なお、昭和小学校にも観測井を設置していたが、校舎の改築により平成 23 年 3 月をもって撤去した。

(1) 調査内容

① 調査地点

図-1 に示す 6 箇所（被圧地下水 5 箇所、不圧地下水 1 箇所）

② 調査方法

これまでフロート式地下水位計により、3 時間ごとの数値を T.P（東京湾中等水位）に換算し整理してきたが、現在は、南平和町観測井（平成 16 年 4 月以降）、日奈久新開町観測井（平成 20 年 6 月以降）、第七中学校観測井（平成 22 年 7 月以降）、古閑上公民館観測井（平成 23 年 3 月以降）、麦島小学校観測井（平成 23 年 8 月以降）、八代南高校観測井（平成 24 年 9 月以降）の 6 箇所すべての観測井について、圧力式地下水位計により、1 時間ごとの数値を整理している。

(2) 結果概要

① 被圧地下水

本市では主に八代市の地下構造に示す S、D I、D II 層が利用されている。図-2 の降水量と年平均水位の経年変化によると、概して降水量に比例して年平均水位が変動しており、平成 6 年の少雨の影響により地下水位が低下しているが、その後は全体的にゆるやかな上昇・横ばい傾向にある。い草作付面積の減少等に伴い、全体で地下水の揚水量が減少したことなどがその要因として考えられる。

また、旬降水量と旬平均水位を示した図-3 によると、6 月から 8 月にかけて地下水位が変動しているが、これは農業や夏期の水需要の増加と集中的な降雨が主な要因であると考えられる。

② 不圧地下水

不圧地下水とは、八代市の地下構造に示す F 層で、一般に浅井戸と呼ばれているが、球磨川などからの涵養量が多い地域を除けば細菌、鉄分、塩分などによる水質の悪化が認められ、近年、ほとんど使われなくなった。

図-4 に示す八代南高校浅井戸の旬平均水位の変動と旬降水量の関係を見ると降水量が直接的に水位に影響していることが分かる。

図一1 地下水位調査地点



	調査地点名	観測井所在地	観測開始年月	井深(m)	ストレーナー位置(m)	地表面標高(m)
①	昭和小学校	昭和明徴町731-2	S.53.7	70	63~66	0
②	第七中学校	郡築7番町41-2	S.52.4	45.3	42.3~45.3	-0.25
③	古閑上公民館	古閑上町20	S.52.7	43	40~42	3.77
④	麦島小学校	迎町1-16-1-1	S.54.7	60	32~36	3.81
⑤	南平和町	南平和町129	S.52.3	37.7	35.7~37.7	-0.19
⑥	日奈久新開町	日奈久新開町122	S.53.2	41	37.7~41	-0.15
⑦	八代南高校	渡町字松上1576	S.62.8	7	5.5~7.0	7.47

表-1-1 平成26年地下水位観測結果

単位 [T.P : m]

観測井名	第七中学校	古閑上公民館	麦島小学校	南平和町	日奈久新開町	八代南高校	※降水量 (mm)	
地表面標高 (m)	-0.25	3.77	3.81	-0.19	-0.15	7.47		
1月	上旬	-0.19	0.78	0.94	0.25	0.00	2.31	13.5
	中旬	-0.24	0.71	0.87	0.23	0.04	2.26	0.0
	下旬	-0.25	0.68	0.84	0.21	0.03	2.23	34.5
2月	上旬	-0.20	0.82	0.95	0.26	0.00	2.42	61.5
	中旬	-0.21	0.84	0.97	0.27	0.08	2.47	38.5
	下旬	-0.20	0.82	0.96	0.29	0.04	2.41	15.0
3月	上旬	-0.20	0.85	0.98	0.25	0.03	2.47	16.5
	中旬	-0.21	0.82	0.97	0.27	0.05	2.43	36.5
	下旬	-0.20	0.85	1.00	0.26	0.05	2.49	43.0
4月	上旬	-0.20	0.90	1.03	0.28	0.06	2.55	6.5
	中旬	-0.22	0.84	0.99	0.27	0.05	2.46	64.0
	下旬	-0.23	0.83	0.99	0.28	0.05	2.45	5.5
5月	上旬	-0.34	0.70	0.87	0.21	-0.01	2.32	7.0
	中旬	-0.28	0.82	0.99	0.27	0.04	2.53	129.0
	下旬	-0.28	0.83	0.99	0.26	0.02	2.54	14.5
6月	上旬	-0.41	0.71	0.89	0.21	-0.05	2.49	43.5
	中旬	-0.63	0.60	0.79	0.09	-0.16	2.49	60.0
	下旬	-0.37	1.05	1.17	0.30	0.02	3.02	272.0
7月	上旬	-0.35	1.11	1.21	0.30	0.03	3.11	196.5
	中旬	-0.42	0.89	1.02	0.19	-0.06	2.85	22.5
	下旬	-0.79	0.53	0.73	-0.05	-0.24	2.58	15.5
8月	上旬	-0.36	1.01	1.16	0.36	0.00	2.95	49.0
	中旬	-0.29	0.94	1.09	0.32	-0.06	2.77	42.0
	下旬	-0.22	0.94	1.10	0.35	-0.01	2.68	62.5
9月	上旬	-0.18	1.02	1.16	0.37	0.01	2.85	95.0
	中旬	-0.24	0.91	1.07	0.34	0.00	2.70	33.5
	下旬	-0.18	0.93	1.10	0.39	0.08	2.68	22.5
10月	上旬	-0.22	0.84	1.03	0.35	0.08	2.56	23.0
	中旬	-0.18	0.90	1.08	0.38	0.09	2.61	38.5
	下旬	-0.20	0.85	1.03	0.34	0.08	2.51	53.0
11月	上旬	-0.20	0.83	1.01	0.33	0.08	2.48	50.0
	中旬	-0.23	0.78	0.96	0.28	0.06	2.43	0.5
	下旬	-0.24	0.70	0.90	0.25	0.05	2.31	35.0
12月	上旬	-0.25	0.69	0.89	0.23	0.04	2.30	43.5
	中旬	-0.25	0.69	0.89	0.25	0.04	2.28	45.0
	下旬	-0.24	0.72	0.91	0.26	0.04	2.30	2.5
旬平均の最高	-0.18	1.11	1.21	0.39	0.09	3.11		
旬平均の最低	-0.79	0.53	0.73	-0.05	-0.24	2.23		
平均	-0.27	0.83	0.99	0.27	0.02	2.54		
降雨合計							1,691.0	

[備考] - : データ欠測
 ※気象庁データ

表-1-2 平成26年地下水位観測結果（月平均）

単位 [T.P : m]

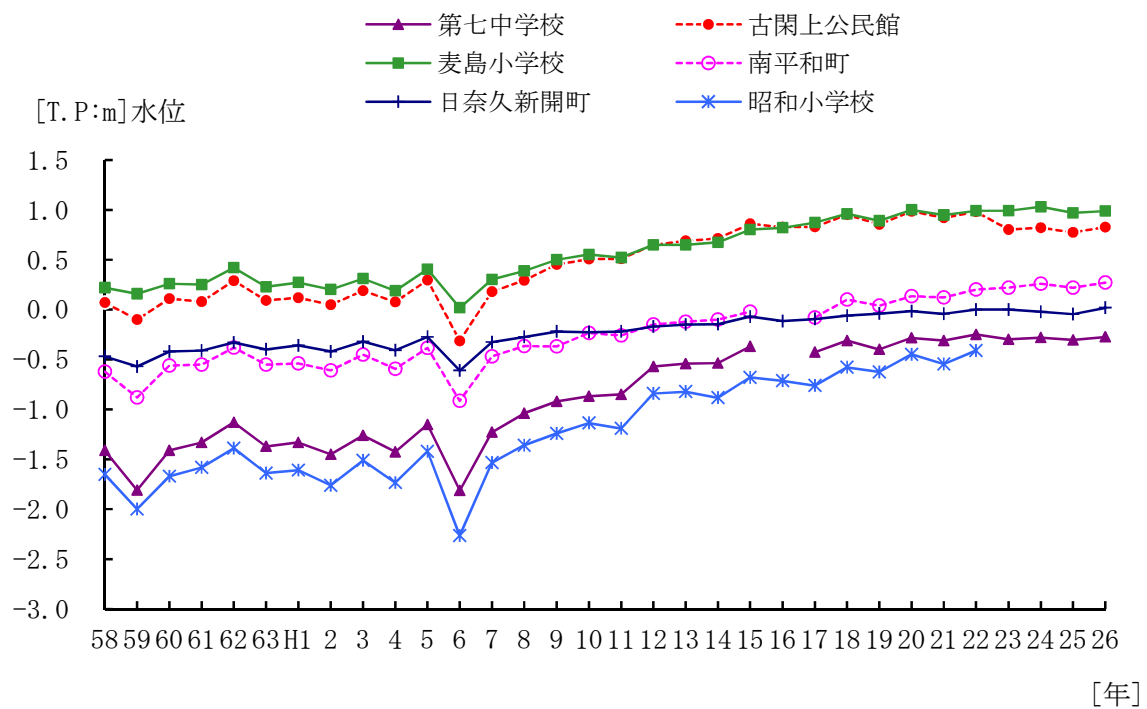
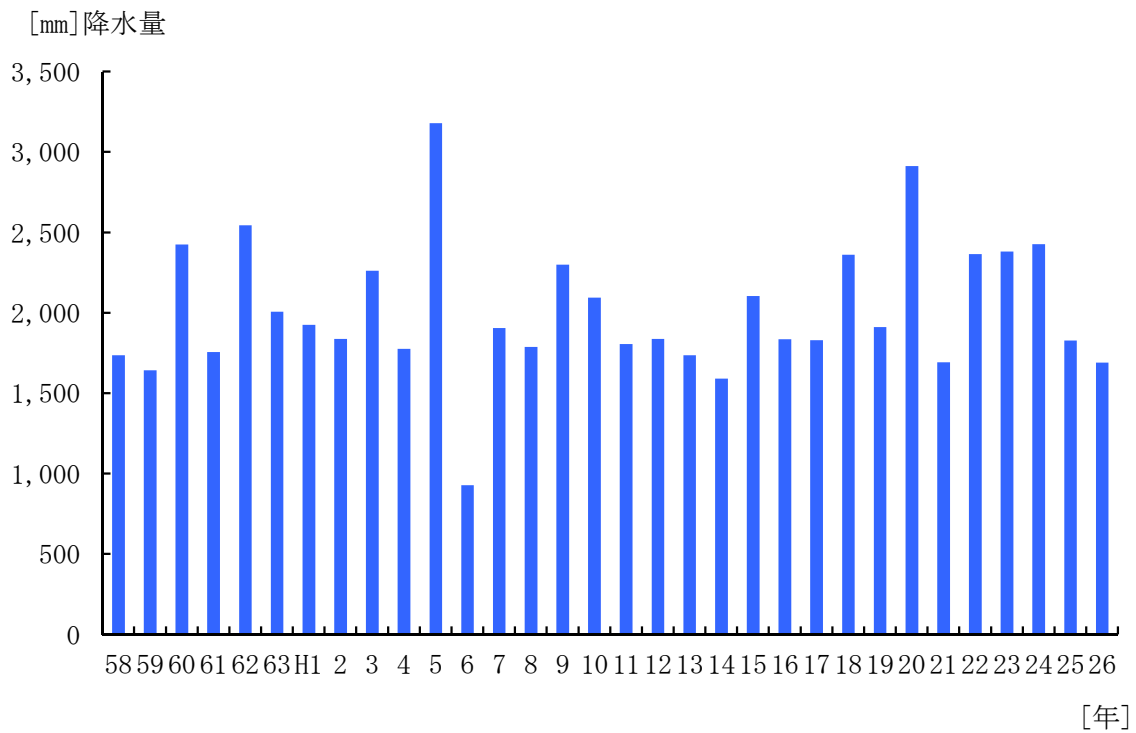
観測井名 月	第七中学校	古閑上公民館	麦島小学校	南平和町	日奈久新開町	八代南高校	降水量 [mm]
1	-0.22	0.72	0.88	0.23	0.02	2.26	48.0
2	-0.20	0.83	0.96	0.27	0.04	2.43	115.0
3	-0.20	0.84	0.98	0.26	0.05	2.46	96.0
4	-0.21	0.86	1.00	0.28	0.05	2.49	76.0
5	-0.30	0.78	0.95	0.25	0.02	2.46	150.5
6	-0.47	0.79	0.95	0.20	-0.07	2.67	375.5
7	-0.52	0.84	0.99	0.15	-0.09	2.85	234.5
8	-0.29	0.96	1.12	0.34	-0.02	2.80	153.5
9	-0.20	0.95	1.11	0.37	0.03	2.74	151.0
10	-0.20	0.86	1.04	0.36	0.09	2.56	114.5
11	-0.22	0.77	0.96	0.29	0.06	2.40	85.5
12	-0.25	0.70	0.89	0.25	0.04	2.29	91.0
平均	-0.27	0.83	0.99	0.27	0.02	2.54	—
合計	—	—	—	—	—	—	1,691.0

表-2 平均水位と降水量の経年変化

単位 [T.P : m]

調査地点名	昭和 小学校	第七 中学校	古閑上 公民館	麦島 小学校	南平和町	日奈久 新開町	八代南 高校	降水量 [mm]
層	DII	DI	S	S	S	S	F	
58年	-1.65	-1.41	0.07	0.22	-0.62	-0.47	—	1,736
59年	-2.00	-1.81	-0.10	0.16	-0.88	-0.57	—	1,642
60年	-1.67	-1.41	0.11	0.26	-0.56	-0.42	—	2,426
61年	-1.58	-1.33	0.08	0.25	-0.55	-0.41	—	1,757
62年	-1.39	-1.13	0.29	0.42	-0.38	-0.33	2.56	2,544
63年	-1.64	-1.37	0.09	0.23	-0.55	-0.40	2.40	2,007
H1年	-1.61	-1.33	0.12	0.27	-0.54	-0.36	2.44	1,925
2年	-1.76	-1.45	0.05	0.20	-0.61	-0.42	2.39	1,838
3年	-1.51	-1.26	0.19	0.31	-0.45	-0.32	2.45	2,262
4年	-1.73	-1.42	0.08	0.19	-0.59	-0.41	2.30	1,776
5年	-1.42	-1.15	0.30	0.41	-0.39	-0.27	2.54	3,181
6年	-2.27	-1.81	-0.31	0.02	-0.92	-0.61	2.11	928
7年	-1.53	-1.23	0.18	0.30	-0.47	-0.33	2.35	1,905
8年	-1.36	-1.04	0.29	0.39	-0.37	-0.27	2.42	1,788
9年	-1.24	-0.92	0.45	0.50	-0.37	-0.22	2.55	2,301
10年	-1.14	-0.87	0.51	0.55	-0.24	-0.22	2.60	2,094
11年	-1.19	-0.85	0.51	0.52	-0.26	-0.22	2.50	1,807
12年	-0.84	-0.57	0.65	0.65	-0.15	-0.17	2.53	1,839
13年	-0.82	-0.54	0.69	0.65	-0.12	-0.15	2.48	1,736
14年	-0.88	-0.54	0.71	0.67	-0.10	-0.15	2.53	1,591
15年	-0.68	-0.37	0.86	0.80	-0.02	-0.07	2.59	2,104
16年	-0.71	—	0.83	0.82	—	-0.12	2.58	1,837
17年	-0.76	-0.43	0.83	0.87	-0.08	-0.09	2.57	1,831
18年	-0.58	-0.31	0.95	0.96	0.10	-0.06	2.65	2,362
19年	-0.62	-0.40	0.85	0.89	0.04	-0.04	2.48	1,912
20年	-0.45	-0.28	0.99	1.00	0.14	-0.01	2.62	2,913
21年	-0.55	-0.31	0.92	0.95	0.12	-0.04	2.53	1,693
22年	-0.41	-0.25	0.98	0.99	0.20	0.00	2.59	2,366
23年	—	-0.30	0.80	0.99	0.22	0.00	2.57	2,383
24年	—	-0.28	0.82	1.03	0.26	-0.02	2.58	2,428
25年	—	-0.30	0.77	0.96	0.22	-0.05	2.53	1,829
26年	—	-0.27	0.83	0.99	0.27	0.02	2.54	1,691

図一2 降水量と年平均水位の経年変化



※ 昭和小学校地下水観測井については、平成23年3月に撤去

図-3 平成25年旬降水量と旬平均水位の変動

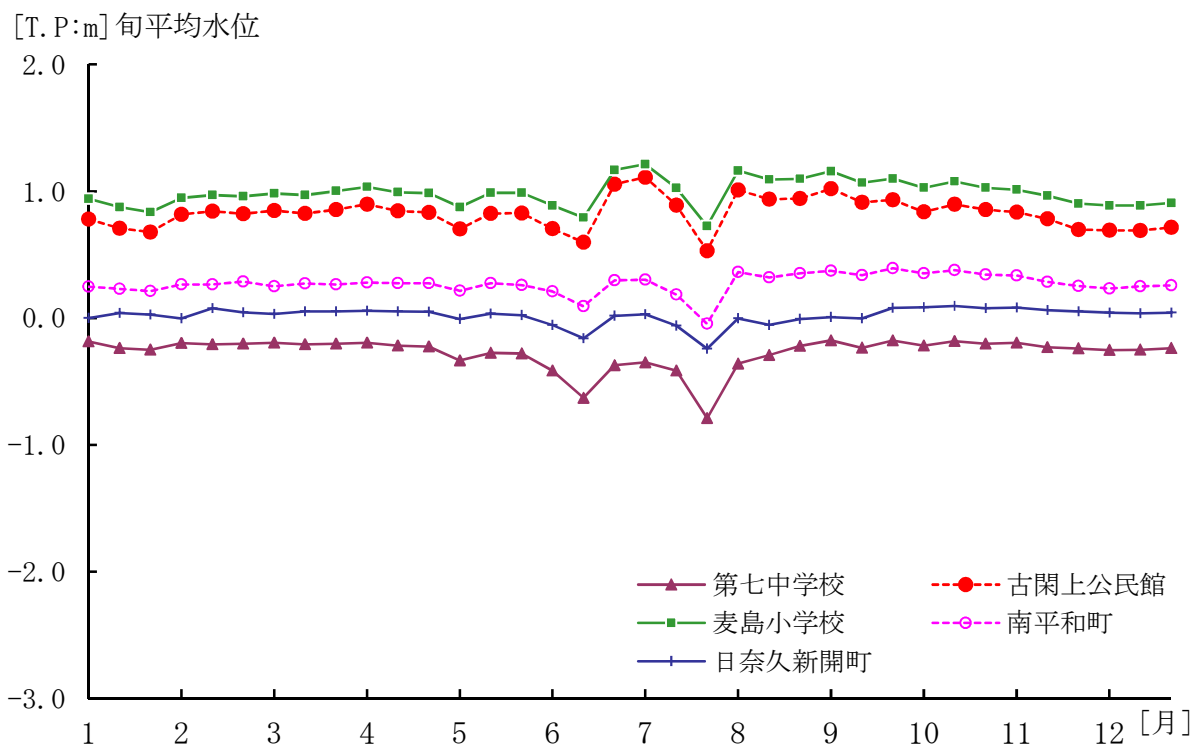
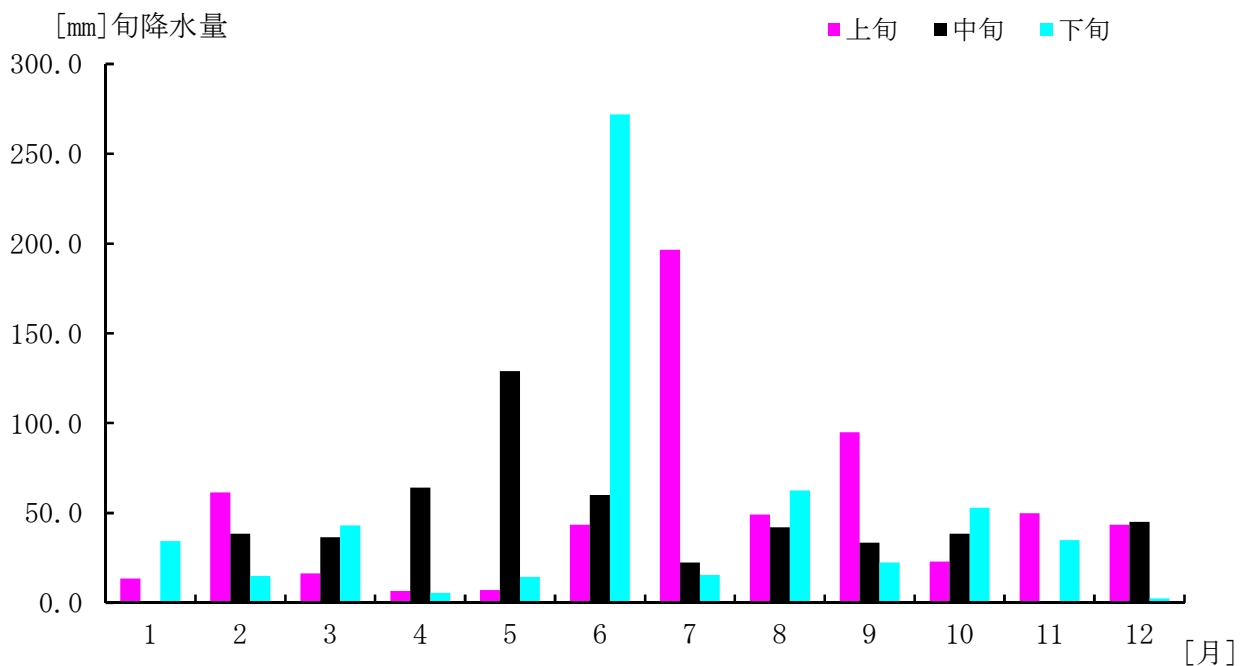
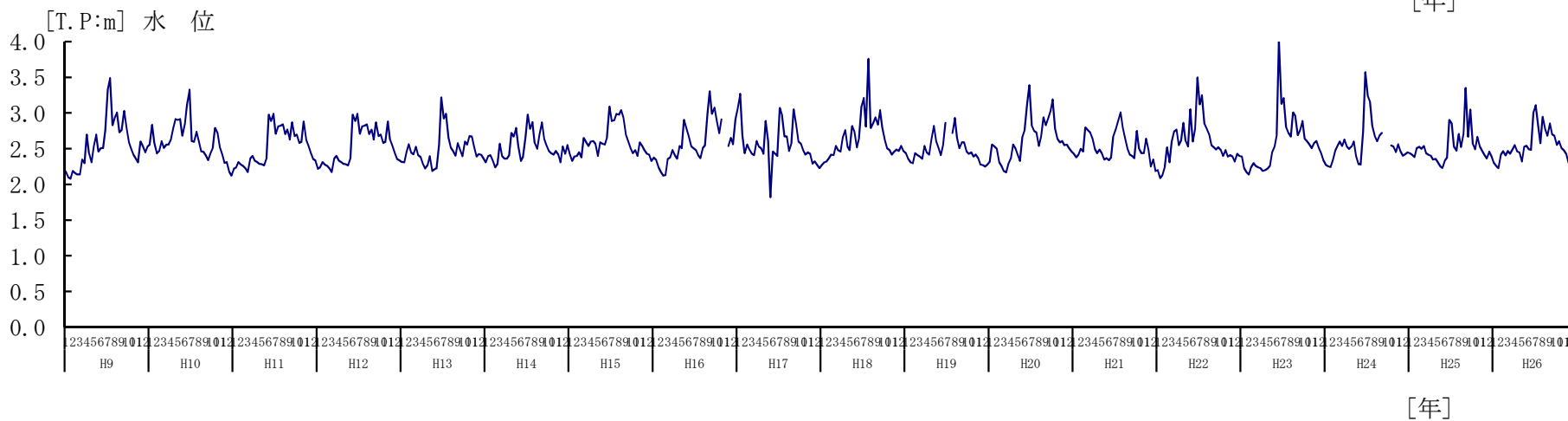
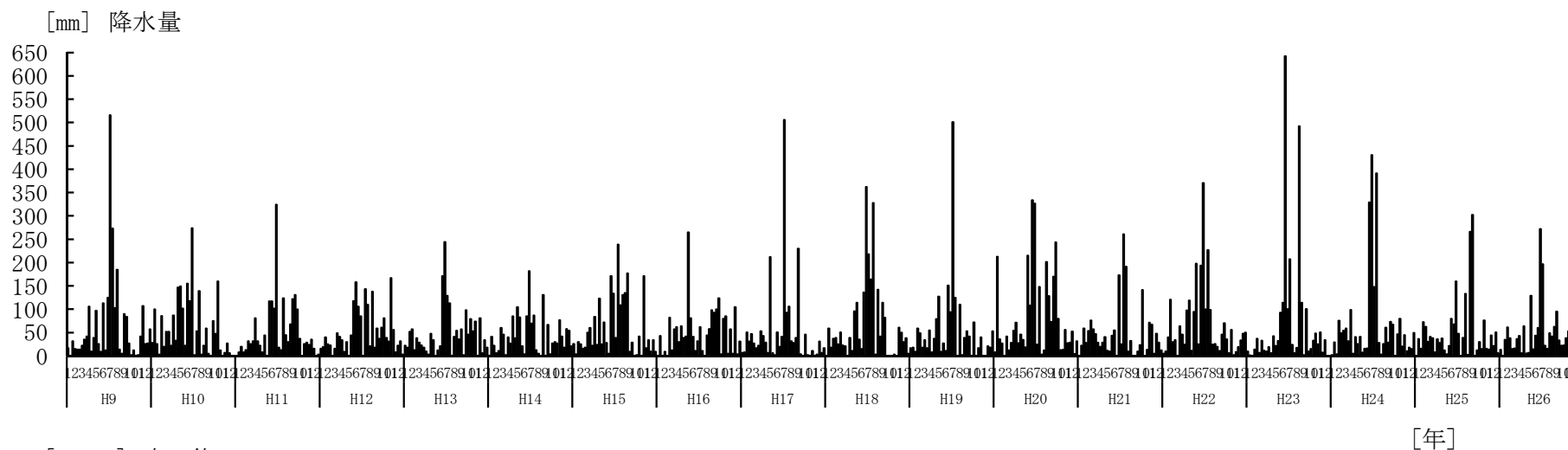


図-4 浅井戸（八代南高校）の旬平均水位と旬降水量



2. 地下水塩水化調査

本調査は、地下水塩水化の動向把握を目的とし、昭和 51 年 7 月から毎月、臨海部の被圧地下水中の塩化物イオン濃度を調査している。

塩化物イオンとは水中に溶存している塩化物のことで、自然水中にも含まれている。地質に由来することが多いが、海岸地帯では海水の影響を受け濃度が高いことがある。また、生活排水、工場排水、畜産排水等の混入によっても増加することが知られている。

(1) 調査内容

① 調査地点

図－1 に示す 28 地点

北部地域 14 地点、南部地域 14 地点

② 測定項目

pH、EC、Cl⁻

③ 測定方法

上水試験法に掲げられた方法（滴定法）

(2) 結果概要

1. 南部地域（前川以南の地域）

① 水島地区（図－2）

No. 1 井戸は昭和 54 年まで塩化物イオン濃度が 300mg/l 付近を推移していたが、昭和 55 年以降は急激に低下し近年は低濃度で推移している。

No. 2 井戸は少雨であった昭和 53 年、平成 6 年時に若干濃度が上昇しているものの、昭和 55 年頃から濃度が徐々に低下し、それ以降概して横ばいの状態である。

また月変化では、両井戸とも低濃度で安定している。

② 金剛地区（図－3）

当該地区は上水道が未整備であり、地下水を飲用する頻度が高い地区であるものの、近年まで、高濃度の塩化物イオンが確認されていたことから、より細かく塩水化の状況を把握するために、平成 21 年 4 月より、新規調査地点として 7 地点を追加している。

金剛地区では近年農業用水が整備され、地下水の農業利用が減少したことに伴い、現在では塩化物イオン濃度が低下している。

2. 北部地域（前川以北の地域）

① 郡築地区（図－4）

この地区では No. 11 井戸において塩水化が顕著であり、調査開始当初から塩水化が認められている。

また、No. 12 井戸においては昭和 56 年から徐々に濃度が上昇し始め、平成 3 年には基準を超過するレベルまで達した。その後も、ゆるやかな上昇を続けていたが、平成 14 年から減少傾向に転じ、平成 17 年には基準を下回るどころまで回復している。

その他の井戸については、近年、経年及び月変化は安定している。
なお、No. 8 井戸については、平成 21 年 3 月で調査を終了した。

② 昭和地区（図－5）

No. 17 井戸は調査開始時から濃度上昇が認められ、平成 5 年の年平均値をピークに、その後は減少傾向にあるものの、依然として高い値を示している。その他の井戸については安定している。No. 17 井戸のみが突出した塩化物イオン濃度を記録している理由としては、他の 3 地点と地下水の利用帯水層が異なっていることや最も海に近い場所に位置していることが考えられる。

なお、No. 15 井戸については、平成 21 年 3 月で調査を終了した。

③ 古閑浜・松高地区（図－6）

No. 18 井戸の年平均値は、これまで低濃度で安定していたが、平成 18 年に初めて基準を超過する濃度まで上昇して以降、上昇傾向にある。月変化を見てみると、年間を通して激しく濃度変動している。今後も塩化物イオンの推移を監視していく必要があるが、井戸の配管等に亀裂が生じ、そのような事象を引き起こしている可能性は現在のところ否定できない。

No. 20 井戸は他の地区の調査井戸に比べ内陸部に位置しているが、これまでの調査でも高濃度域での変動を繰り返している。平成 22 年度に実施した KD 調査で、No.20 井戸の西南西側（高島町～郡築 3 番町～郡築 1 番町）で帯状に高濃度の井戸が確認されており、この付近から海水が浸入していると推察される。

④ 鏡地区（図－7）

平成 21 年 4 月より、鏡地区の沿岸部においても地下水中の塩化物イオン濃度を把握するために、新規調査地点を 3 地点追加した。

No. 29 井戸においては、海に近い場所に位置していること等から、塩化物イオン濃度は、年間を通して基準前後の濃度で推移している。

図-1 塩化物イオン調査地点

【球磨川以北】



【球磨川以南】



表-1 塩化物イオン調査地点と利用帯水層

区域	調査地点		利用帯水層
	住所	調査井戸No.	
水島地区 (南部)	水島町	1	S
	水島町	2	S
金剛地区 (南部)	南平和町	3	S
	南平和町	22 (H21.4~)	不明
	南平和町	23 (H21.4~)	不明
	南平和町	4	S
	北平和町	24 (H21.4~)	不明
	北平和町	5	S
	北平和町	25 (H21.4~)	不明
	北平和町	26 (H21.4~)	不明
	北原町	6	S
	鼠蔵町	7	不明
	鼠蔵町	21 (H21.4~)	不明
	鼠蔵町	27 (H21.4~)	S
	郡築一番町	9	D I
	郡築一番町	10	不明
	郡築五番町	11	D I
	郡築七番町	12	D I
	郡築十二番町	13	D I
昭和地区 (北部)	昭和日進町	14	D I
	昭和同仁町	16	D I
	昭和同仁町	17	D II
古閑浜・松高地区 (北部)	古閑浜町	18	S
	沖町	19	S
	高島町	20	不明
鏡地区 (北部)	鏡町鏡	28 (H21.4~)	井深：45m
	鏡町北新地	29 (H21.4~)	井深：55m
	鏡町野崎	30 (H21.4~)	井深：60m

表-3 平成26年塩化物イオン濃度月変化

単位[mg/l]

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	
水島地区	1	3.4	3.4	3.3	3.4	3.4	3.5	3.4	3.5	3.5	3.3	3.5	3.6	3.4	
	2	3.0	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8	3.0	3.1	2.9	
金剛地区	3	5.0	5.0	4.9	5.1	5.1	5.0	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	5.0	5.0	
	22	20	20	22	23	24	25	27	26	24	24	24	25	24	
	23	7.4	7.5	7.6	7.8	7.8	7.8	7.8	7.6	7.4	7.5	7.8	7.9	7.7	
	4	9.0	9.3	9.3	8.6	8.8	8.7	8.6	8.7	8.6	8.7	9.1	9.8	8.9	
	24	27	29	27	25	28	29	29	28	26	28	29	29	28	
	5	13	14	14	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	
	25	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	11	11	10
	26	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	12	12	12
	6	4.1	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.6	3.8	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9
	7	7.6	7.6	7.8	8.0	8.1	8.0	7.6	7.7	7.4	7.2	7.8	8.3	7.8	
	21	7.3	7.2	6.6	6.1	6.1	7.3	9.0	7.8	9.7	11	15	15	9.0	
27	6.0	6.0	6.0	5.9	6.0	6.1	6.1	6.1	5.9	6.0	7.8	6.3	6.2		
郡築地区	9	73	75	76	77	74	76	73	71	69	76	77	78	75	
	10	92	93	94	92	92	96	94	97	95	97	95	98	95	
	11	430	430	430	420	430	430	420	430	420	420	420	430	426	
	12	77	77	78	77	78	79	78	79	76	77	79	78	78	
	13	51	53	54	53	54	55	54	57	54	57	58	57	55	
昭和地区	14	66	67	66	68	68	68	68	68	66	67	69	70	68	
	16	79	80	81	82	80	81	84	88	79	90	95	89	84	
	17	550	570	560	570	580	560	560	540	540	560	570	590	563	
古閑浜松高地区	18	46	1800	45	190	570	81	55	1800	380	360	58	1600	582	
	19	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	4.7	4.8	4.6	
	20	110	110	110	120	120	110	100	98	99	97	100	100	106	
鏡地区	28	12	12	12	12	12	12	11	11	10	11	11	11	11	
	29	180	190	190	190	200	170	170	160	150	150	160	170	173	
	30	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	

[備考] 数値のゴシック体による表示は、塩化物イオン濃度が200mg/lを超えたことを示す。

図-2 水島地区

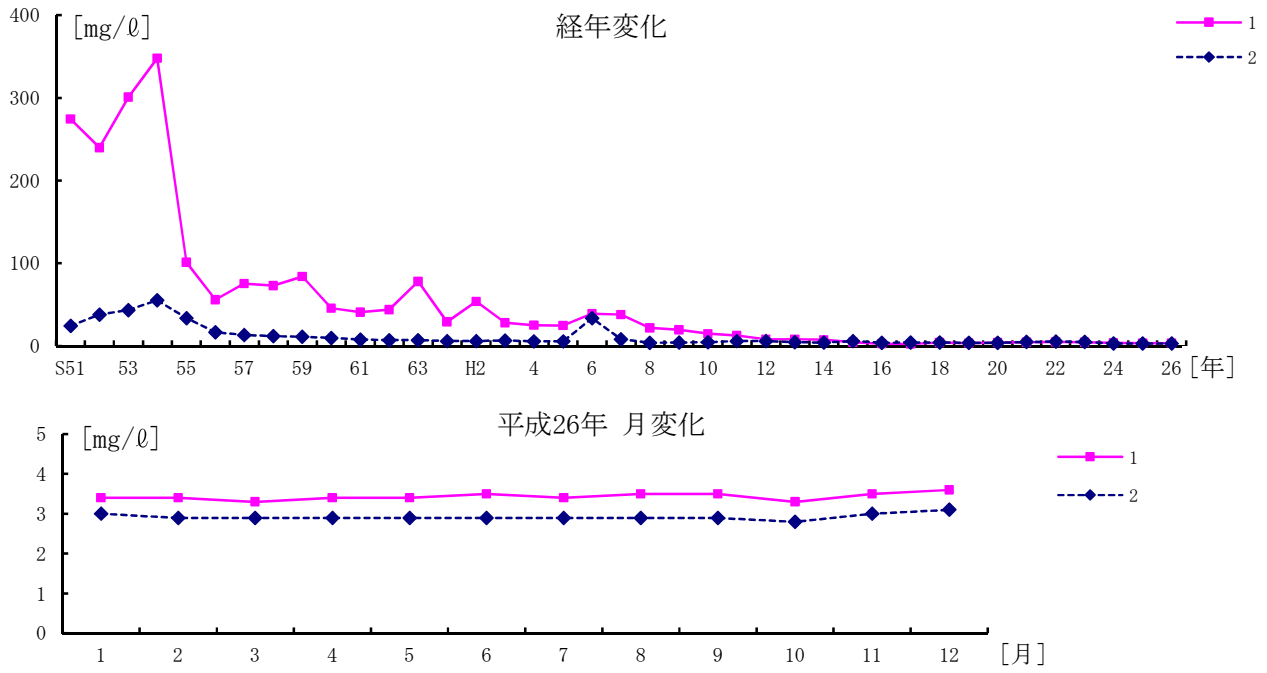
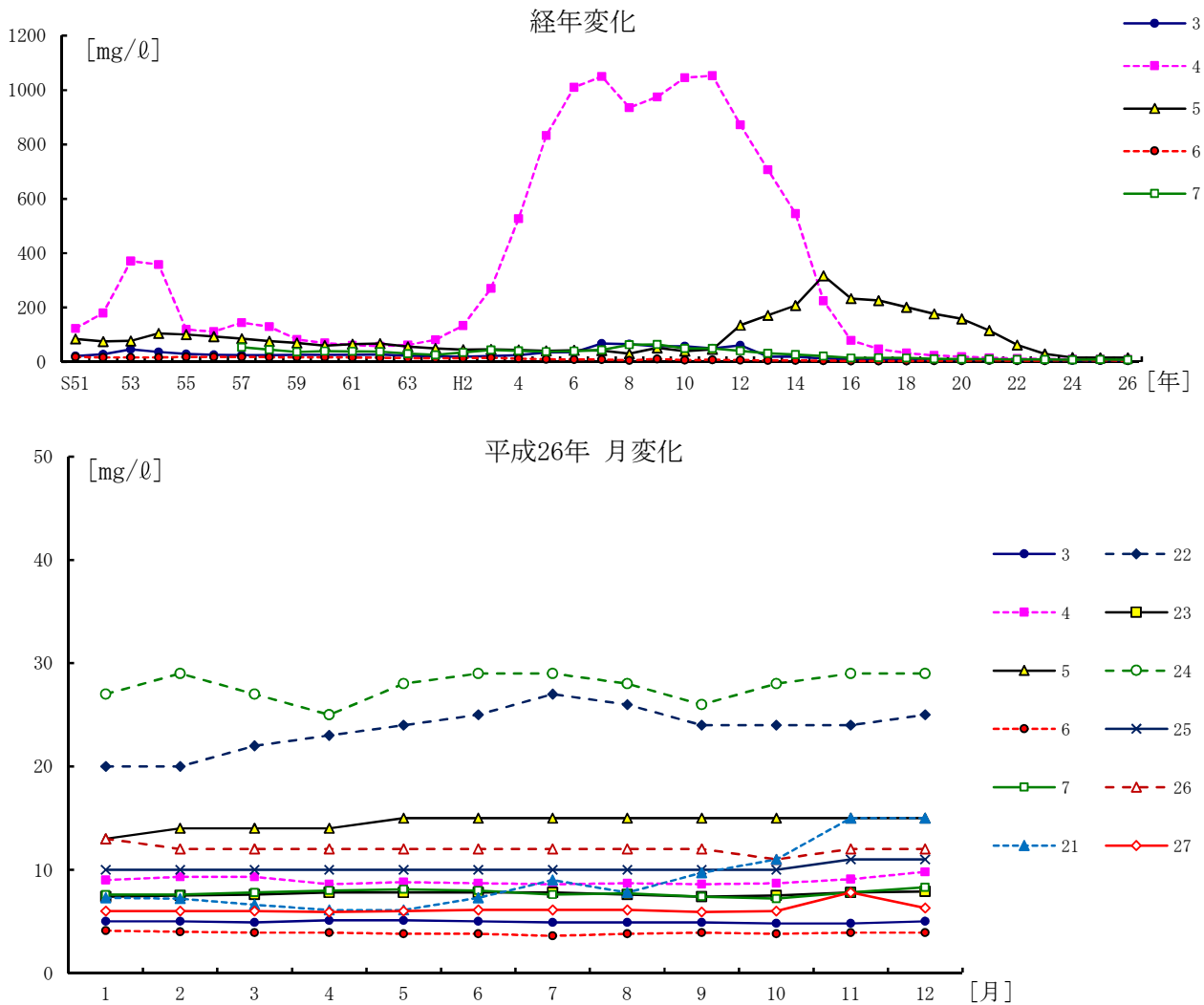
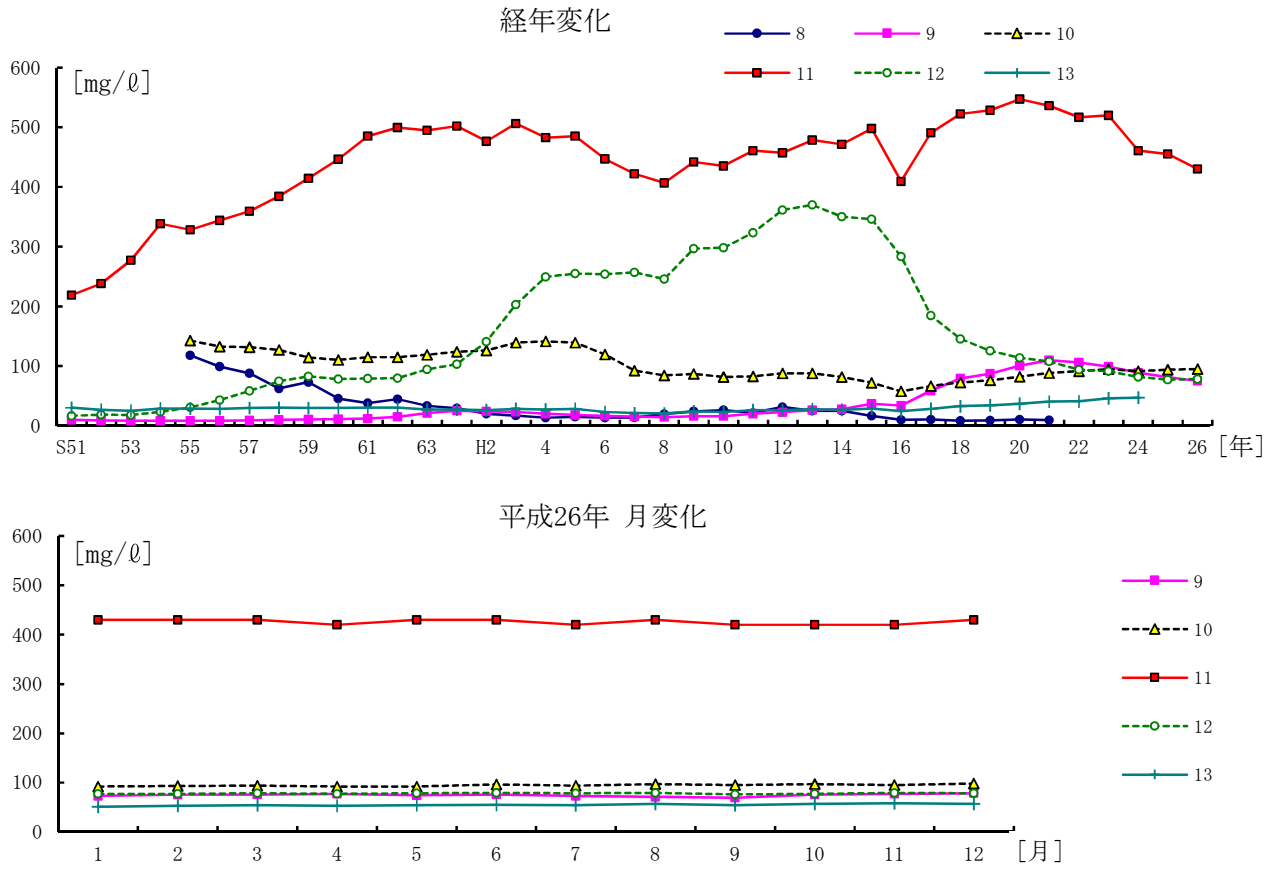


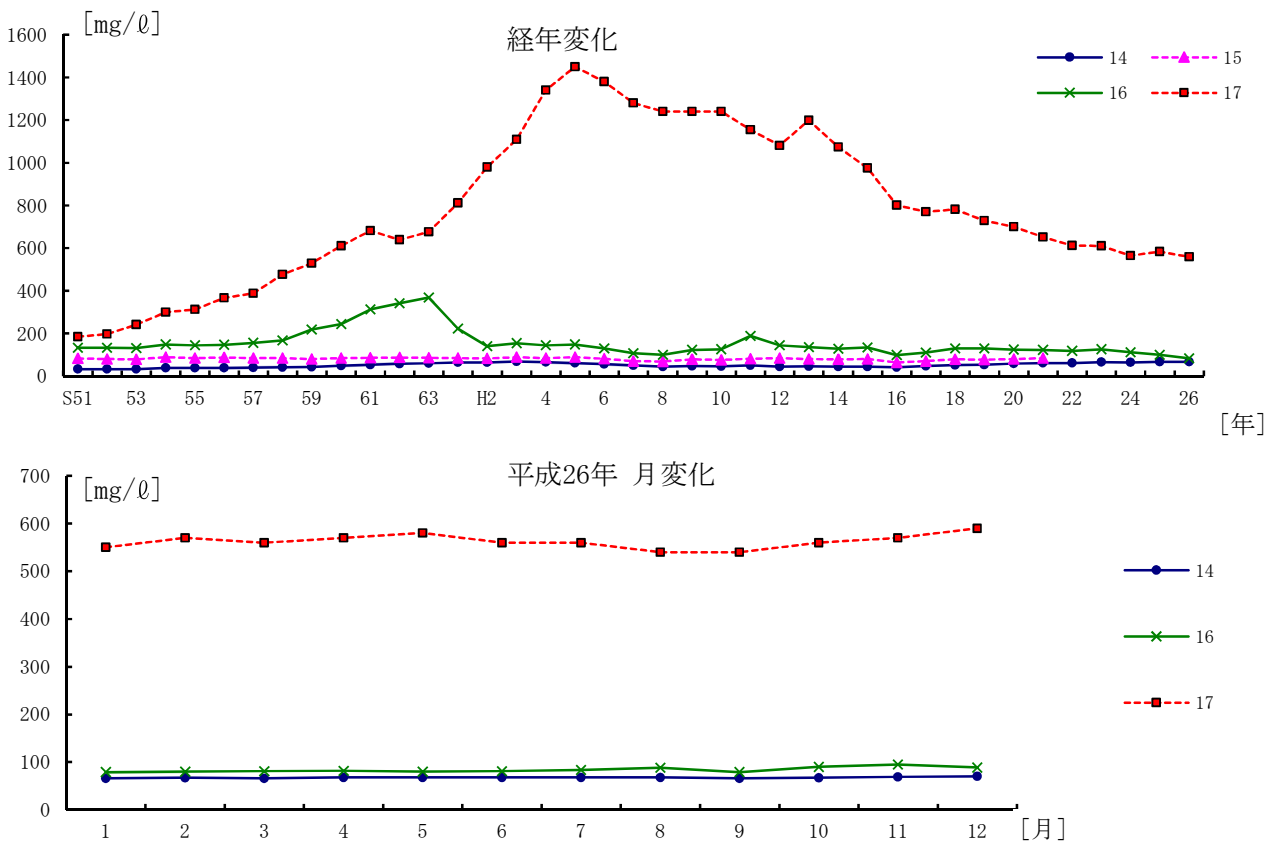
図-3 金剛地区



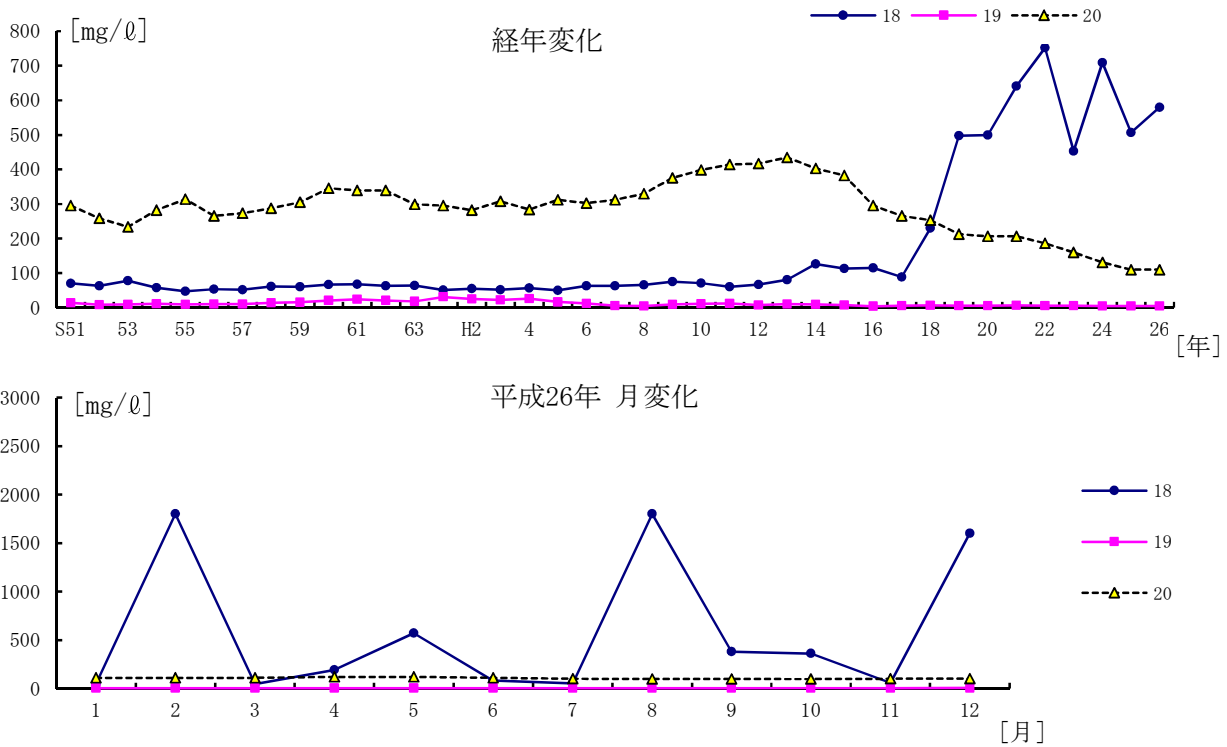
図一4 郡築地区



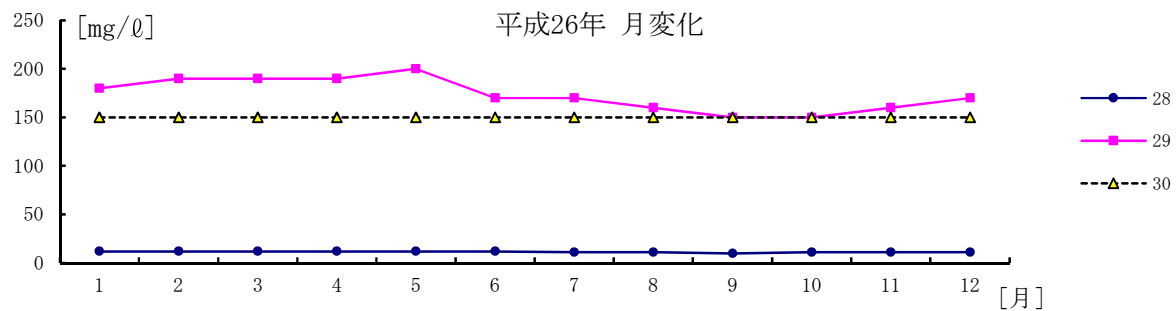
図一5 昭和地区



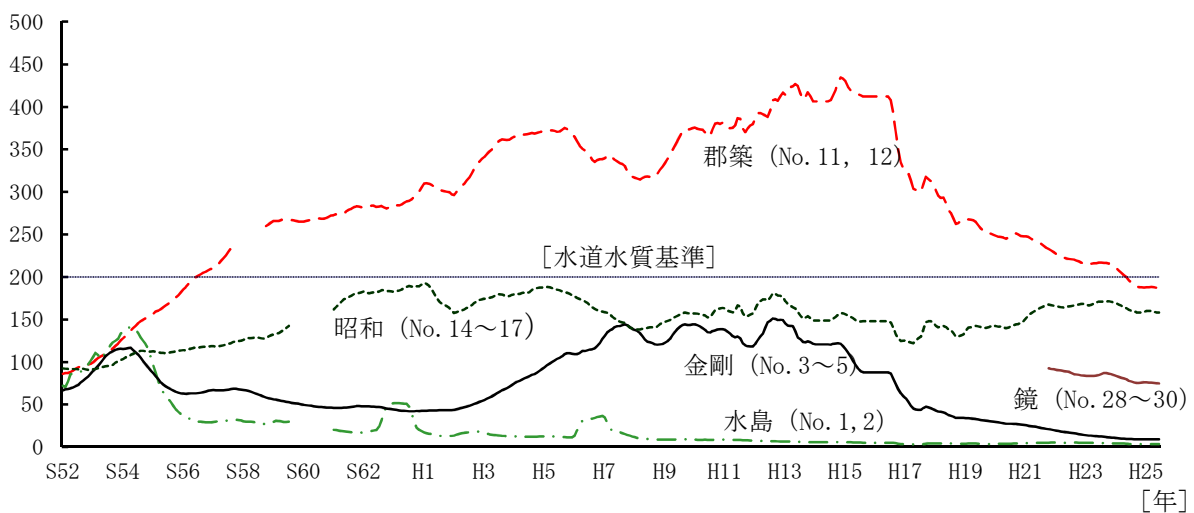
図一6 古閑浜・松高地区



図一7 鏡地区



図一8 地域別塩化物イオン濃度の幾何平均の修正移動平均値の推移



3. 有害物質モニタリング調査

過去の地下水調査において有害物質の基準超過が確認された地域等について、地下水の状況を継続的に監視するためモニタリング調査を実施した。

(1) 調査内容

① 調査地点

- i) 汚染地域 6 地点
- ii) 工場跡地周辺地域 2 地点 (浅井戸)

② 分析項目

ほう素、ふっ素、砒素、鉛

③ 分析方法

分析方法は、「地下水の水質汚濁に係る環境基準について（平成9年3月13日環境庁告示第10号）」に掲げられた方法。

(2) 調査結果

過去に「ほう素」、「ふっ素」及び「砒素」が基準を超過した井戸については、引き続き基準超過が確認された。

工場跡地周辺地域については、汚染は確認できなかった。

表-1 平成26年度有害物質モニタリング調査結果

地域	地点 No.	調査地点	項目	調査日		基準値
				H26. 8. 6	H26. 12. 9	
	1	二見下大野町	ふっ素	1.0mg/ℓ	1.0mg/ℓ	0.8mg/ℓ以下
			ほう素	12mg/ℓ	10mg/ℓ	1mg/ℓ以下
	2	二見野田崎町	ふっ素	0.08mg/ℓ未満	0.08mg/ℓ未満	0.8mg/ℓ以下
			ほう素	6.1mg/ℓ	5.7mg/ℓ	1mg/ℓ以下
	3	二見本町	ふっ素	0.08mg/ℓ未満	0.08mg/ℓ未満	0.8mg/ℓ以下
			ほう素	3.8mg/ℓ	3.8mg/ℓ	1mg/ℓ以下
	4	古閑浜町	砒素	0.024mg/ℓ	0.028mg/ℓ	0.01mg/ℓ以下
5	千丁町古閑出	砒素	0.012mg/ℓ	0.013mg/ℓ	0.01mg/ℓ以下	
6	鏡町両出	砒素	0.017mg/ℓ	0.017mg/ℓ	0.01mg/ℓ以下	
工場跡地 周辺地域	7	鏡町下村	ふっ素	0.08mg/ℓ未満	0.08mg/ℓ未満	0.8mg/ℓ以下
			鉛	0.001mg/ℓ未満	0.001mg/ℓ未満	0.01mg/ℓ以下
	8	鏡町下村	ふっ素	0.08mg/ℓ未満	0.08mg/ℓ未満	0.8mg/ℓ以下
			鉛	0.001mg/ℓ未満	0.001mg/ℓ未満	0.01mg/ℓ以下

[備考] ゴシック体：基準超過

4. 地下水採取量（平成 25 年度実績）

八代地域（旧八代市・旧千丁町・旧鏡町）は、熊本県地下水保全条例により地下水の水質及び水量の保全を特に図る必要がある地域として指定されている。指定地域内については、吐出口の断面積が 6 cm² を超える揚水設備で地下水を採取する者について、地下水の採取届出及び採取量の報告が義務付けられており、指定地域以外の地域においても、吐出口の断面積が 50 cm² を超える揚水設備で地下水を採取する場合は、同様の届出及び報告が義務付けられている。

また、全ての地域において吐出口の断面積が 125 cm² を超える揚水設備で地下水を採取する者については、熊本県の許可を受けることが義務付けられている。

地下水採取量（以下「採取量」という。）の経年変化等について、表－1、図－1、2 及び図－3 に示す。県の集計結果によると、県内の採取量は年々減少傾向にあったが、23 年度は増加に転じた。八代市においても、近年、採取量は減少傾向にあったが、平成 23 年度は、工業に供する採取量の増加に伴い、採取量が増加した。

表－1 地下水採取量の経年変化

[単位：千 m³]

		21	22	23	24	25	
県内全体		240,550	233,455	233,823	246,740	263,500	
八代地域全体		37,234	34,380	37,323	33,927	31,387	
八代市		32,641	29,436	32,549	30,434	29,181	
八代市における用途別採取量内訳	農業	採取量	2,898	2,707	2,814	2,898	2,891
		報告件数	783	766	796	783	753
	水産養殖	採取量	1,854	1,683	1,594	1,854	1,579
		報告件数	10	10	10	10	10
	工業	採取量	18,131	15,770	15,369	18,131	16,165
		報告件数	86	83	83	86	78
	建築物	採取量	3,689	3,717	3,626	3,689	3,406
		報告件数	254	259	259	254	258
	水道	採取量	4,889	5,013	4,905	4,889	5,009
		報告件数	44	43	44	44	43
	その他	採取量	1,088	1,544	1,128	1,088	131
		報告件数	26	26	25	26	25

[備考]・地下水保全地域については第 2 章の 4 環境影響評価に掲載。

図-1 地下水採取量の経年変化

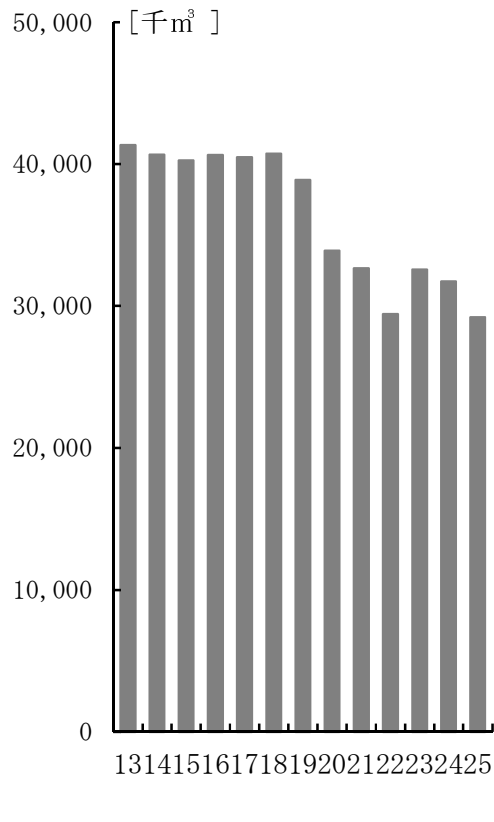


図-2 平成25年度地下水採取量内訳

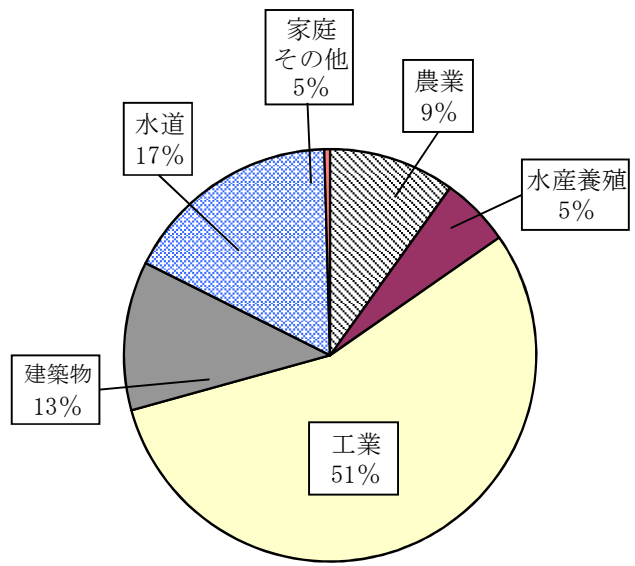
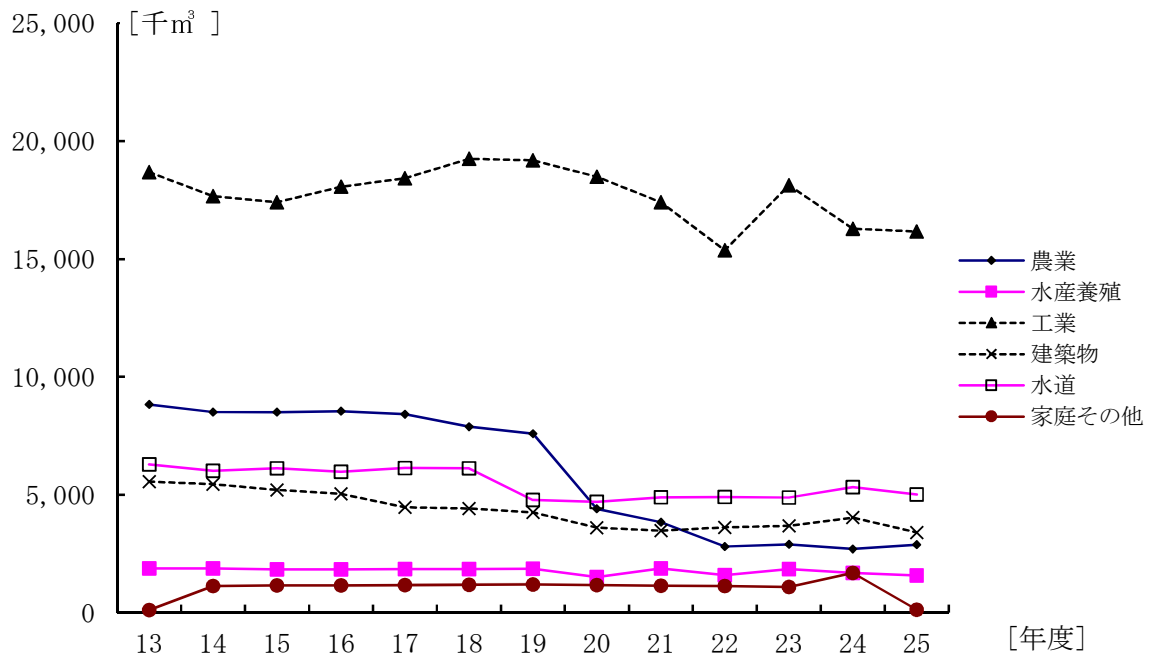


図-3 用途別地下水採取量の経年変化



[備考] 図-1、2及び図-3は八代市における地下水採取量を示す。